栃木県の社会教育を考える

－栃木県社会教育会議で提言させて頂いたこと－

開倫塾
塾長　林　明夫

１．はじめに

おはようございます。開倫塾塾長の林明夫です。

7 月 4 日に栃木県社会教育委員会議があり、私も栃木県社会教育委員の一人として、参加させて頂きました。会議の場所は、栃木県の公館の中会議室で、栃木県庁の西側にある建物です。委員長は、遠藤忠先生とおっしゃる宇都宮大学教育学部の教授の先生です。全部で 20 名の社会教育委員がいまして、そこに平間栃木県教育長はじめ栃木県教育委員会の方々 19 名が参加されました。全部で 40 名程の会議でした。2 年間かけて、家庭教育支援のあり方を考え、報告書を出すことになっております。今日は、7 月 4 日にその会議で私が提案させて頂いたことをお話させて頂きます。

２．栃木県の社会教育を考える－栃木県社会教育会議で提言させて頂いたこと－

(１)何のために家庭教育の支援が必要か。私の考えとしては、すでに迎えた 21 世紀の世界、日本、栃木県をどのような社会として認識するのか、急激な変化に対応するためにはどのような教育が求められるのかということをまずは明らかにした上で、家庭教育の支援のあり方を、社会教育行政の視点から論ずることが大切であることを提案させて頂きました。例えば、世界がどんどん国際化されて人の移動が盛んになる中で、価値観の多様性(Diversity ダイバーシティ)を重視しながら、個人としてどのように自分のよさを伸ばしながら生き生きと生きるかを具体的に考えるべきだということをお話させて頂きました。

(２)また、これからの家庭教育支援の方策として一番に考えられるのは、次の世代に親となる青少年の家庭教育に関わる方策です。そこで私は、小学校の高学年、中学校、高等学校での少年少女のための親になるためのプログラム、親業プログラムを企画、開発、充実させることを提言させて頂きました。自分の人生における子育ての素晴らしさ、意義、少子化、日本における社会的な支援の状況などをもっと正確に認識すべきと考えます。日本では、少子化が非常に進んでいます。政府や自治体、社会はこのことを深刻に受け止め、子育てをするお父さんお母さんに対する支援も、少しずつですがいろいろと充実されつつあります。私は、漫画や映像やコンピュータなどを駆使しながら、子供に対する親の役割等を具体的にわかりやすくカリキュラム化することもよいのではないかと考え、提案させて頂きました。

(３)これに加えて、親になる前に多くの人が社会人として一人暮らしをしたり、結婚後は家庭生活を営むわけですが、これらについての具体的な方法もできるだけわかりやすくカリキュラム化して、高校卒業後に自立した生活が送れるように支援したほうがよいのではないかということも提言させて頂きました。

(４)栃木県の教育委員会では、児童・生徒の生活状況調査というものを作成して、私たち大人にできることとしてまとめた次の七つの提言を出しています。

①自然に挨拶ができる子供に育てよう。

②注意したあとは、子供の気持ちを確認しよう。

③家族で向き合う場を作ろう。これは、心のキャッチボールが大事だということなのでしょうね。

④生活のリズムが作れる環境を整えよう。つまり、子供に生活リズムの規則性をしつけようということです。

⑤言われればできるのではなく、自分でできる子供に育てよう。

⑥与えられたもので自立的に生活できる子供に育てよう。

⑦本を読む時間を作ろうということで、本と触れ合う環境を整えよう。

以上のような七つの提案をしています。そうであるなら、これらを、まずはお父さんお母さんに徹底させるためのプロジェクトチームを作ってはどうかという提案を、私はさせて頂きました。

(５)それから、規範意識の醸成、つまり良いことと悪いことをはっきりさせるために、就学 1 年前も含めて、小学校 1 年生から高校 3 年生までの 13 年分の栃木県独自の道徳教育のカリキュラムを、今の時代に合わせてもう一度作り直そうということを提案させて頂きました。やって良いことと悪いことは、刑法などいろいろな法律に書いてありますので、道徳教育の中で、児童・生徒のための法教育を刑法教育・刑事法教育を含めて行うことも提案させて頂きました。

(６)規範意識醸成のために一番大事なのは、自律心を養うことです。自律心が足らない原因は、社会や自分に対する不安や自信のなさがあります。つまり、社会や自分の中に誇れるものや自信の持てるものが見い出せないから自律心が欠如するのだと私は思います。先週もお話させて頂きましたが、社会や自分の「よさ」を見い出し、その「よさ」をよりよくすることで、不安や自信のなさを取り除くことが求められると私は思うのです。ですから、アジア、日本、栃木県、自分の住む市町村、今通っている学校、友だち、地域の人たち、家族のよさを 1 つでもよいですから見つけることが大切。いろいろなもののよさを見つける能力を育みながら、自分のよさに気づくことができます。自分や自分の周りのさまざまな人やものの中に、よさ、つまり価値を見い出し、誇りと自信を持って生きることが自律の前提です。このような自律心を養う教育を、規範意識醸成の前提としてプログラム化することがよいのではないかと私は思います。

(７)もちろん、何が社会の本当の問題か、問題点の発見と究明は、よりよい社会や地域の形成のために欠かすことはできないと思います。ただ、アジアは最悪である、日本ほどひどい国はない、

栃木県はどうしようもない、自分の住む市町村はどうしようもない、この学校はダメだなどと言い続けられていますと、最後には、私はどうしようもないとなってしまいます。つまり、周りの地域に絶望感だけを抱き、それに加えて、自分自身の欠点ばかりを考えていると、生きている意味さえ見い出せずに、子供の心の中は虚しさでいっぱいになってしまいます。虚しさだけで育った子供が大人になっても、その心が満たされることは少なく、虚無感にかられた人生を送ることになりがちです。

(８)ですから、アジア、日本、栃木県、自分の住む街、学校、友だち、家族のよさを十分にかみしめ、その中の 1 つとして自分のよさに気づいて、そのよさをどのように伸ばすかということを、栃木県の教育委員会が社会教育促進の見地から、腰を落ち着けて取り組めばよいのではないかと私は思います。そうすれば、すばらしい家庭教育の支援になるのではないかということを提案させて頂きました。

(９)最後になりますが、栃木県や各市町村の図書館や美術館、体育館などの社会教育施設は 365 日開いていません。あまりにも休日が多すぎます。開館時間も朝は 6 時から夜 10 時・11 時頃まで開館しているとよいのですが、そうはなっていません。美術館や博物館、図書館、体育館などの社会教育施設の 365 日朝 6 時すぎから夜 12 時までのオープンも、強く提案させて頂きました。

３．おわりに

折角、栃木県社会教育委員会のメンバーの一人にさせて頂きましたので、7 月 4 日の栃木県社会教育委員会議では、以上のことを提案させて頂きました。

皆様は、栃木県の社会教育についてどのようにお考えでしょうか。御意見のある方はぜひ栃木県教育委員会のほうに御意見をお寄せ頂ければありがたいと思います。

－ 2008 年 11 月 6 日加筆－